

平成27年度第1回 鳥取県西部地区中学校学びの共同体研究会 実施レポート

期日 平成27年6月23日(火)

会場 境港市立第一中学校

◎ 研究テーマ 「学びの共同体」(協同的な学び)の理論と実践

1. 公開授業(9:50～12:25)

2限……1年理科、1年英語、1年保体、2年数学、3年社会

3限……1年英語、1年音楽、1年技術、2年家庭、3年理科

4限……1年数学、1年社会、1年美術、2年国語、2年理科

2. 研究授業(13:35～14:25)

5限……3年数学「平方根」(授業デザインとワークシートは別紙)

授業参観の視点……「学びの共同体」(協同的な学び)の理論・方法を取り入れ、かかわり合い学び合う活動を通して、「よりよく学び、確かな学力を育む生徒の育成」をめざした学習活動の展開

①生徒が主体的に学び(よりよく学び)、学習(教科)のねらいを達成する(確かな学力を育む)ための「学ぶ値打ちのある課題」となっているか。

- ・「共有の課題」(基礎・基本、知識・理解、技能)
- ・「ジャンプ課題」(応用・発展、技能、思考・判断・表現力)

②個々の生徒の学びや、生徒同士のかかわり合い学び合い(班・全体)が成立していたか。

- ・「共有の課題」における班活動(個人作業の協同化…わからないときに聞く)
- ・「ジャンプ課題」における班活動(他者の意見を聞き、自分の考えを深め広げる)
- ・全体学習(対面)……表現の共有(聴き合い、生徒の意見をつなぐ)

3. 研究協議(14:50～15:50)

授業者の自評…… $\sqrt{\quad}$ のかけ算を前時に行っていた。本時は $\sqrt{\quad}$ の足し算を扱う。計算の方法にこだわる班があった。前半は班で交流し、後半は全体でシェアした。時間配分が難しかった。どうやったら友だちに伝えられるのか。

研究協議……参加職員が4人グループに分かれて、授業参観の視点について協議する。

指導助言……授業最初の時間は黄金の時間。長々と説明しない。「共有課題」で24分かかった。これだけの時間が必要だったのか。子どもの学びを見ないで、タイマーに時間をコントロールされていた。グループ学習のときは、先生は個人の質問に答えてはいけない。グループの生徒と話をしなくなる。グループ学習がうまく機能するよう支援する。子どもたちはよく集中して取り組んでいた。生徒の発表に対して拍手が起きたが、生徒たちは本当に理解していたのか。いいかどうかわからないのに拍手するのは危険である。

4. 講義および指導助言(15:50～17:00)

講師 学びの共同体研究会 スーパーバイザー(元東大阪市立金岡中学校長)馬場宏明先生

(1)協同的な学びの哲学

- すべての子どもの学ぶ権利を保障する。
- すべての子どもを一人残らず学びに参加させる。
- 教師全員が互いに学び合い、教育の専門家として成長する。
- どの生徒も一人にしない……子ども同士がつながる。
- どの教師も一人にしない……先生同士がつながる。(同僚性が生まれる。)

(2)教えるから学び取らせるスタイルにする(Teaching → Learning)

- 協同的な学びの風景
 - ・仲間と知恵を出し合って考える
 - ・仲間の考えを自分の思考の道具にしている。
 - ・仲間と協働して互いに伸びていく。

(3) 学びの授業へのアプローチ……授業にグループ学習を入れる。

(4) 授業の二段システム（共有とジャンプ）

○グループ学習一段目……「共有」教科書と出会わせて学び取らせる。

○グループ学習二段目……「ジャンプ」教科書レベル以上の課題に挑戦させる。

※学力は押し上げられるモノではなく、引き揚げられるモノ。高い課題が学力を引き揚げる。

(5) 学びの成立条件

○前提としての目的（つかみ）……学習の目的（学ぶ意欲を醸し出し、学びに誘い込む話）

課題……子どもたちが自主的に学び取ることが出来るように工夫された教材

① 真正な学び……教科としての特性と課題がある。同時に学び合いがある。

② 訊き聴き合う関係……「ここどうするの？」と訊ける。訊かれたら徹底的に関わる。

③ ジャンプ……個人では届かないがグループ学習で届くレベル（教科書レベル以上）の課題

課題に挑戦することで共有課題がよりわかる課題。学力は上から引っ張られる。

(6) 話し合いと学び合い

○話し合い……一見活発な意見交換に見えるが多くは思いつきの交流で探求や考察に発展しない。

○学び合い……沈黙からひそひそ話になり不活発に見えるが、実は探求や考察が生まれている。

(7) 班学習とグループ学習の違い

○グループ学習 ・長は決めない。

・話し合いはするが、グループとして意見はまとめない。

・まずは一人で考える。

・「ここどうするの？」と尋ねられるまで教えない。

・先生はグループとしての意見を求めない。個人を指名して発表させる。

(8) 教師の立ち居振る舞いを考える（授業開始時）

○声のトーン……授業者も子どもも声のトーンを下げよう。

○授業の目的（つかみ）……授業の第一声は授業の目的を示そう。

○課題の説明……できるだけ言葉少なく簡潔にしよう。

○グループを入れるタイミング……できるだけ早く入れるようにしよう。

○課題プリント配布のタイミング……プリントはスムーズに課題に取り組めるよう素早く配ろう。

○机間支援……そっとさりげなく素早くしよう。

(9) 教師の立ち居振る舞いを考える（授業中頃）

○引き続き机間支援……グループに参加できない子、参加しようとならない子の気持ちを測って支援しよう。

○解答欄の提示……短時間に素早く提示できる工夫をしよう。

○学びの出来具合を見極める……グループを解くタイミングを見極める

○答えを書く指示をする→グループを解く……答えを記入させるタイミングとグループを解いてコ
の字に戻すタイミングは同時がよい。

(10) 教師の立ち居振る舞いを考える（授業終盤……答え合わせ）

○聴く……子どもの発言をしっかりと丁寧に聴き、その文脈を聴く。

○つなぐ……子どもの発言を子どもたちに「今の発言どう思う？」とつなぐ。あるいは、どうして
そうなったかをつっこみ質問を促す。

○もどす……学びがずれたり躓き、詰まるようなことが起きたら、迷わずテキストや資料集や辞書
に、あるいはグループにもどそう。

○つっこみ……より深い学びになるように「もう少し詳しく」「どこからそう思った」等つっこむ。

(11) 協同的な学びのルール……子どもたちに説明し、協力を依頼する。